

【学生による ESD 学習支援】

奈良市立飛鳥小学校 「カヌー体験教室」 支援報告書

文化遺産教育専修 1 回生 山下 野絵

1. **実施日** 平成 30 年 8 月 4 日 (土)
2. **場所** 奈良市立飛鳥小学校 (奈良市紀寺町 785)
3. **参加者** 谷垣徹、伊藤拓海 (大学院生)
野瀬佳吾、坂本和音、仲村幸奈、足立繫郁、西條秀哉、義根惇司、山下野絵 (学部生)
株式会社モンベル 社長をはじめとするスタッフ 複数名
奈良市立飛鳥小学校 教員、児童、飛鳥 C・S 協議会 複数名

4. 活動支援内容

平成 30 年 8 月 4 日に、奈良市立飛鳥小学校でカヌー体験教室が開催され、本学ユネスコクラブ員が活動の支援に当たった。本学ユネスコクラブ員は、毎年継続的に支援に関わらせていただいている。この活動は、飛鳥小学校区の子どもたちにカヌーを体験してもらうと同時に、ライフジャケット着用の重要性を伝える水難事故防止の取り組みでもある。

今回の活動支援より、以下の 2 点について感じた。一つ目は水難事故防止の意識について、二つ目は楽しく学び、遊べる場についてである。

一つ目は水難事故防止の意識についてである。カヌー体験というアクティビティと合わせて、東日本大震災の教訓から生まれた「浮くっしょん」というライフジャケットを実際に着用し、水中でのロープを使った救出方法を実際に見ることもできた。普段の生活では意識できないような水難事故防止の体験は、子どもたちにとって大きな学びの場になっただろう。

二つ目は楽しく学び、遊べる場についてである。水鉄砲での遊びはもちろん、カヌーの乗り方やライフジャケットの装着方法の説明などを聞いてからプールに入るといった流れであった。暑い日には丁度良い環境の中で、水難事故にあわないためにはどうすればいいのかという説明を聞くことは、貴重でありとても楽しく充実した時間になっただろう。実際に、カヌーに乗っているときの子どもたちは、戸惑いながらもコツを掴んでからは、すいすいと楽しそうにカヌーを漕いでいた。

以上が、今回の活動支援で感じたことである。そして、このような体験を行うことができたのは、学校や地域、企業の方々との関わりのおかげであると改めて実感した。株式会社モンベルの方々、地



ライフジャケット着用の説明を受ける



カヌー体験教室の様子

域の方々や学校職員の協力により、安全に楽しく活動を行うことができた。また、このカヌー教室のような印象に残る貴重な体験は、成長していく中でも思い出として子どもたちの記憶に残り続けることができるだろうと強く感じた。本活動の支援は、ユネスコクラブ員が今まで継続して関わってきたものである。来年もぜひ参加したい。